

報告 1：朝元照雄（九州産業大学）

「なぜ大立光電（ラーガン・プレシジョン）は世界最大の携帯電話用カメラレンズ製造企業になったのか」

大立光電は（Largan=ラーガン・プレシジョン）は世界最大の携帯電話用カメラレンズ製造企業である。近年、携帯電話の需要が増え、優れた業績を上げている。特に、2017年秋に販売するアップル社の次期スマートフォンにカメラレンズが2つの「デュアルカメラ」搭載を採用する。カメラレンズの需要が倍増するとみられ、台湾証券取引所で大立光電の上場株価が連日の高値更新を行っている。2017年4月26日に大立光電の株価が初めて5,010台湾元の大台に乗せ、一部の証券会社が目標株価を6,000台湾元超に引き上げると伝わっている。台湾では上場株価が最も高い企業のことを「股王」（株王）と呼ばれた。まさに、大立光電はこのタイトルを手に入れた企業である。

『日本経済新聞』（2016年10月5日付）の「アジア300指数」として選んだアジア主要6カ国（中国/香港82社、韓国42社、台湾40社、インド44社、シンガポール22社、インドネシア25社、タイ25社、マレーシア22社、フィリピン20社、ベトナム5社）の327社が構成された。同紙（2017年6月16日付）にアジア300実力企業ランキングが掲載されている。ここでの実力企業ランキング調査は成長力（2016年度までの5年間の売上高と純利益の平均増減率）、収益性（2016年度の売上高純利益率）、資本効率（同・自己資本利益率＝ROE）、安全性（同・自己資本比率）を日本経済新聞社が独自に点数化し、総合的に優れた企業をランキングしたものである。そのうち、台湾の大立光電はこのランキングでトップの座を占めている。その理由としては、アップルなどのスマートフォンのカメラ向けレンズを製造し、売上高に占める純利益率が47%を占めていた。筆者は長年、台湾の企業研究（『台湾の企業戦略』と『台湾企業の発展戦略』勁草書房、2014年と2016年）を行い、このような優れた業績をあげた企業は当然、注目している。

まず、第Ⅰ節は台湾の精密光学部品産業の発展動向を概観する。続く第Ⅱ節は、大立光電の設立からのちの発展の沿革を考察する。そして、第Ⅲ節は大立光電のマイスター制度とコア・ケイパビリティを検討する。第Ⅳ節は大立光電の企業理念、失敗と挽回策およびSWOT分析などの企業戦略を研究する。最後の節は本論をまとめる。